

# PR 第8回日本国際歯科大学2018 海外演者はどんな人？



## Prof. Giovanni Zucchelli

イタリア・ボローニャ大学

Prof. Giovanni Zucchelli, DDS, PhD 1988年、ボローニャ大学卒業、歯科医師免許取得。1999年、同大学よりメディカルバイオテクノロジーの博士号(PhD)授与。2000年、ボローニャ大学歯周病学講座教授就任。歯周病学分野での臨床研究において欧米での受賞多数。2006～2008年、米国歯周病学会の口腔形成外科分野におけるE Bud Tarrson Research Awardを受賞。EAED、SIdP、SIO正会員、European Federation of Periodontologyメンバー。IJED誌、PRD誌、また歯周病に関するいくつかの専門誌の査読編集委員。Pubmedに記載されている100以上の論文執筆に携わり、いくつかの軟組織歯周形成外科術の開発者でもある。歯周病に関する国際的かつ主要な会議の招聘演者。ライブサージェリーをとまなう歯周形成外科術のコースを多くの国で開催。軟組織歯周形成外科に関する書籍の分担執筆多数。著作『Mucogingival Esthetic Surgery』(邦題：「イラストで見る天然歯のための審美形成外科」、クインテッセンス出版)は、現在12か国の言語に翻訳されている。

10/5 (金)  
Aホール  
13:15～17:30

## 「審美修復治療を極める：歯周形成外科の 観点から」(日本臨床歯科医学会(SJCD)セッション)



山崎長郎  
(座長)



大河原純也



松本邦夫



Giovanni Zucchelli



鈴木真名



紹介者  
鈴木真名  
東京都開業

に受け入れられたのだろう。彼の凄みは、手術の要諦を熟知し、無駄なくそれを実践できるスキルの確かさにある。

### 自身の臨床に生かせる 講演のポイント

彼はすぐれた臨床家であるだけでなく、有能なリサーチャーでもある。読者が知りたがっている情報を織り込んで研究をデザインすることにも長け、特に露出したインプラントのリカバー率に関する一連の文献は出色の出来で、一読に値する。

歯周形成外科では、基本手技に忠実に行うことと、生体が持つ本来の治癒能力を阻害しないような配慮が重視される。Zucchelli氏の講演にはそのヒントが散りばめられているし、本セッションの共演者たちにも日本

### Zucchelliは何がスゴイのか!?

Giovanni Zucchelli氏は今や世界でもっとも注目される臨床家の1人である。彼の手技は決して新規的なものではなく、誰も真似できないような華麗なテクニックを披露しているわけではない。むしろ、どの治療においても歯周形成外科の基本手技に則り、極力シンプルな手法を用いている。そして、その基本手技が誰よりも巧い。奇をてらったものではなく、基本的なコンセプトに忠実に臨床を行っているため、多くの読者



12か国語に翻訳されたProf. Giovanni Zucchelliの書籍『イラストで見る 天然歯のための審美形成外科』(クインテッセンス出版)。本邦でもベストセラーとなり、一大ブームを巻き起こしている。

最高峰のレベルの高い臨床家が揃っている。講演を見ながら自身の臨床を振り返ってみるのも面白いだろう。